

変わるものと変わらないもの

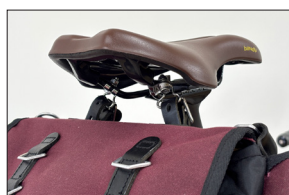
1974年にスタートし、東京サンエスの中で最も長い歴史を持つオリジナルブランド「ViVA ビバ」。そんなビバ製品の中にはブランド開始当時から今なお50年近く改良を重ねながら販売され続ける製品が多く存在します。今回はその中でもここ数年で生産工場が変わりリニューアルした「バックループ」「クイックエンドアダプター」「DX バッグサポーター」の変わったこと・変わらなかったことを一部製造の模様を交えてお伝えしていきます。

<バックループ>



▶左から製造工程順に並ぶ。
型抜き→面取り→
2段階に分けての曲げ加工が施される。

▶2020年にリニューアルしたバックループ。ステンレスボルトの頭をプラスから4mmアーレンキーにし、プレートをループの間に挟むようにすることで固定力を高めています。

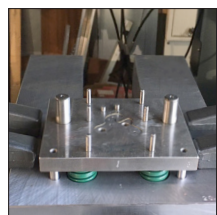


◀Dixna「バンディーサドル」にバックループを取り付け、バッグはCARRADICE「バーレイ」。

<クイックエンドアダプター>



▶2023年にリニューアルしたクイックエンドアダプター。ナットの圧入部分がとてもシビアなもので、圧入が少しでも弱ければ回ってしまい、強すぎればプレートに影響が出てしまう。穴を空けるのみにし、別でナットを用意すれば価格も抑えやすく、制作の難易度が下がることは明白でしたが、そこはオリジナルらしさを活かし（ナット紛失のリスクがないという点も勿論ありますが）同様の仕様にこだわりました。リニューアルの際、今までQRタイプのためのラインナップだったところにハブナット用も新たに加わりました。



▲抜き型

▶型抜き加工の様子



▲(左) 以前のモデルと(右) 現行モデル。一見変化はないですが面取りがされたり細かな改良をしています。

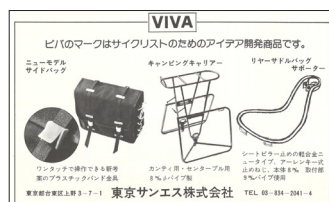
<DX バッグサポーター>



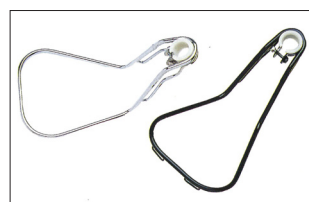
▶DX バッグサポーターはこれまでも何度も改良され名称も変化しながらも、今なお販売され続けています。発売した当時はシートステーに取り付けるものが多く、シートポストに取り付けるタイプは珍しいものでした。当初は25.4mm径

に合わせて作られていましたが、時代の移り変わりと共に大きいサイズが一般的になっていき、現在では25.4mm～31.8mm径の取り付けに対応し、取り付け方法もシートポストを一度抜いて通すタイプから抜かずに取り外しができるよう改良されていきました。

▶2023年にリニューアルした最新の「DX バッグサポーター」は無垢7mmのステンレスを採用し、プレートだった当たり面をアルミパーツに変更し、滑り止めラバーを見直すことで取り付け強度を高めています。



▲1976年4月号の「ニューサイクリング」VOL.14 NO.4(NO.137)では「リヤーサドルバッグサポーター」という名称でイラストの広告を出しています。

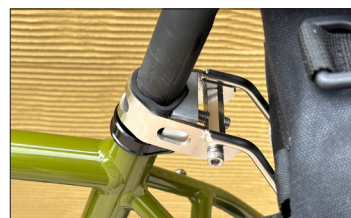


▲2000年頃まであったBKのラインナップ。その後一度写真だけカタログに復活しましたが、その時は発売とはなりませんでした。



◀大きく形が変わったのは2003年頃。バンドで締める形状からプレートを押し出すことで固定する形状となりました。これによりシートポストを一度取り外すことなく装着が可能になりました。2023年のステンレスへのリニューアル以前のモデルはスチールにメッキ加工を施していました。

▶新たに採用されたアルミパーツの面取りの様子



今回依頼することになった東京 墨田区にある下町情緒残る町工場は、試作・異形材の加工・特殊治具を使った加工・既存品への追加工を得意としており、紹介した製品全て諸事情により図面がない状態から、現物をお渡しし複雑な形状から寸法を出してもらい、そのほかの協力会社との打ち合わせ、制作可否、材料変更、さらに良くするための形状や機構の変更など、寸法の調整を重ね最終的な図面の完成までとてもご尽力いただきました。